

校番	95	○	ホームルーム活動		生徒会活動		学校行事	別紙様式2
----	----	---	----------	--	-------	--	------	-------

令和4年度生徒指導サポート実践校「特別活動の取組事例」

学校名	広島県立福山商業高等学校	校長	土屋 研	生徒指導主事	松井 佳樹
-----	--------------	----	------	--------	-------

取組事例名		『朝の登校指導』			
取組における育てたい資質・能力					
人間関係形成		社会参画		自己実現	
「協調性・柔軟性」	3	「主体性・積極性」	1	「アイデンティティー」	2
取組のねらい					
ビジネスマナーである「時間を守る」一環として遅刻を減らす 背景 学年全体の遅刻数（1日平均）が4月当初（約20人）から倍増し、徐々に増え11月には50人以上になった。					
取組の具体的内容			取組の創意工夫 『キーワード 共通認識』		
1 期間	2月6日（月）～2月10日（金） 8:30～8:40 ※ 事前周知期間 1月30日（月）～2月3日（金）		・クラスで「どうしたら遅刻を減らせるか」話し合う。		
2 対象	1・2学年全生徒		・各クラスで1日の目標値（ <u>5～10%程度</u> ）を設定する。 ↑低すぎず、高すぎず。		
3 場所	正門前		・この期間は、朝の駐輪場の指導は行わない。		
4 指導教員	1・2学年副担任、3学年担任・副担任（各2名/日） 1・2組 月・水・金、3・4組 火・木		・担任が所定の場所に入力する。		
5 指導方法	朝のSHRに間に合うように声掛けを行う。 服装や髪型などについても声掛けを行いつつ、遅刻減少を目的とした声掛けを主に行う。		・担任が教室の黒板（前 OR 後）に毎日の遅刻数を書く。		
6 評価方法	①各クラスで毎日、遅刻の数を集計する。 ②1週間毎に遅刻数の合計が最も少ないクラスを表彰する。 ③登校指導期間の遅刻数の合計が最も少ないクラスを表彰する。 ④遅刻が最も多かったクラスは、クラスで話し合っ て奉仕活動等の協働活動に取り組むことで集団としての意識を高め、規律意識の向上を図る。 例 ゴミ拾い、窓ふき、トイレ掃除など		・朝のSHR OR LHR 時に校内放送でクラス代表（1名）にどのように取り組んだのかを全体に発表させる。		
取組の成果と課題					
成果	1 教職員と生徒が、遅刻を減らさないといけないという共通理解の元に行うことができた。 2 生徒と授業以外の場面で人間関係を築くことができた。				
課題	1 登校指導を行わなくても遅刻がなくなるといけない。生徒の意識改革だけでなく、教員の指導力の向上が求められる。 2 登校指導を行うよりも定期考査やその他の特別活動（体育祭や文化祭など）の方が遅刻数は少ない。ということは、毎日テストや特別活動を行うのではなく、考査やその他の特別活動に向けて計画的に取り組み、それらを日々の教育活動に繋げていかなければいけない。 ※ 朝の登校指導日（3年生は除く）1日の遅刻数 2/6（月）19人、2/7（火）11人（マラソン大会雨天中止）				